

鋼管削進の特長を生かす

キーワード

改築技術、改築工事、鋼管削進、老朽管入替工法、切り回し

重盛 知勇

SHIGEMORI

Chiyuu

ベビーモール協会

東京油機工業(株) 代表取締役



1. はじめに

『管路の非開削改築技術』これは、計画・調査・施工完了まであまりにも項目が多い。大変難しい条件の連続である。緊急時の改築工事はお互いに、その状況を理解し了承済みの施工なのである程度の不便さは共有できる。しかし、一般の改築工事は緊急を要しない場合が多い。

そのため、必要性において共有できない場合が多いはずである。切り回しの方法、施工期間の説明等お互いに難しい問題が多すぎる工事である。

2. 事前・事後処理について

【改築下水の使用状況の調査】

老朽管入替工事施工範囲の完全なバイパス（確実な切り回し）

【各家庭の排水の切り回し】

汚泥ポンプ・真空ポンプ等による安全・確実に簡単な排出方法が必要である。

3. 取付管の再構築

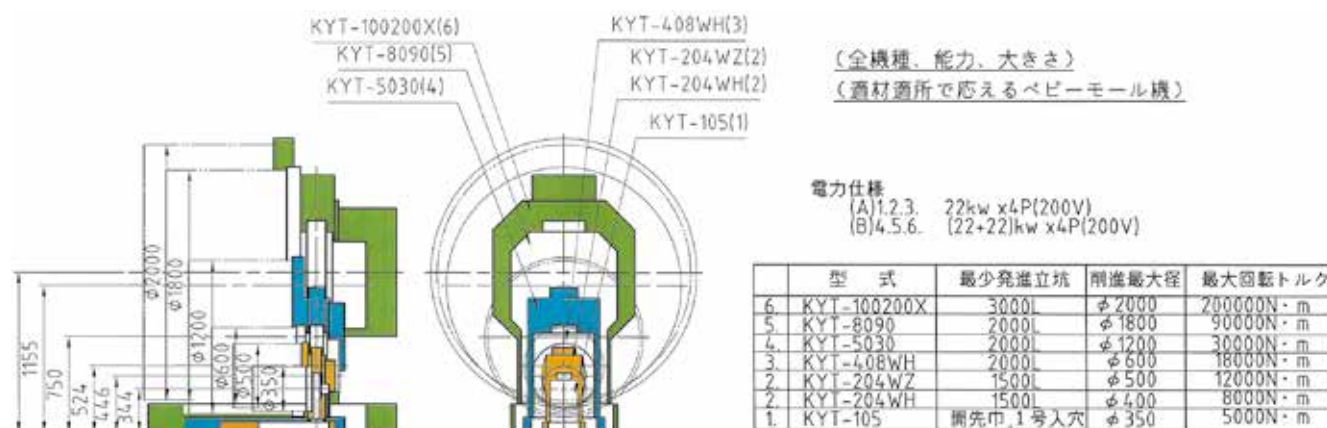
取付はベビーモール工法の特技だが老朽管入替時の取付は全てが複雑な組み合わせとなり対応は難しい。

現在、どんな場合でも取付が可能になるように技術的にも開発を続けている。

4. ベビーモール老朽管入替工法の長所、短所

老朽管を削進鋼管内に取り込む工法のため老朽管の破碎及び切削が不要。そのため、老朽管の材質等に対する配慮はいらない。

大きく曲がっている場合も直線的に切断が可能なた



図ー1 ベビーモール機比較図および表